

国立大学法人金沢大学とトヨタ紡織株式会社が 「産学連携の包括的推進に関する協定」を締結

～近未来の自動車内装空間の快適性向上において分野融合型研究開発を推進～

国立大学法人金沢大学(学長:山崎 光悦^{やまざき こうえつ})とトヨタ紡織株式会社(本社:愛知県刈谷市、取締役社長:石井 克政^{いしい よしまさ})は、3月1日(木)、「産学連携の包括的推進に関する協定」を締結しました。

金沢大学とトヨタ紡織は、これまで自動車用エアフィルターや繊維素材評価の分野で研究協力を重ねてきました。今回の協定は、トヨタ紡織の目指す近未来の自動車に求められる快適性・安全性・環境性を向上する研究開発を通して、金沢大学の研究成果の社会活用の推進、および有為な技術者の育成を行うべく、より一層の連携強化を目指し、包括的な連携を進めるものです。

締結式において、トヨタ紡織副社長の堀 弘平^{ほり こうへい}は、「移動空間の空気の質や乗り心地の研究において、技術的観点に加え、心理学的空間認識の観点を取り入れるなど、分野融合型の研究を進めることで、世の中の変化によって生まれる新しいニーズや期待に応える新製品をスピーディに開発し、同時に社内イノベーションを喚起していきたい」と述べ、金沢大学 研究担当理事・副学長の向 智里^{むかい ちさと}は、「今回の協定は、単に共同研究の量的増加だけでなく、相互の人材育成に資する新たなステージに押し上げる契機になると大いに期待している」と述べました。

両者は今後3年間、近未来車の快適空間の実現をテーマに共同研究を進め、連携をより一層深めていきます。



握手を交わすトヨタ紡織 副社長の堀 弘平(左)と金沢大学 研究担当理事の向 智里 (右)